

審議会における主な委員質問及び事業者回答※後日事業者が一部回答を補足しております。

資料 1（令和 8 年度第 3 回環境影響評価審議会）

もみじ台地域の土地利用再編に伴う複合開発事業計画段階環境配慮書（第 1 回：令和 8 年 7 月 16 日）

No.	委員	区分	質問の要旨	事業者回答
1	芥川委員	質問	大気質、騒音、振動について、示されている将来予測値と環境基準の比較だけでなく、現況の数値と比較してどれくらい変化するのか（数値）を示してほしい。	二酸化窒素濃度は現況0.01ppm程度で将来もわずかな増加にとどまり、SPMも0.001ppm以下レベルで将来僅かに増加すると予測している。騒音（昼間）は現況60～67dBに対し将来60～68dB程度、夜間は現況52～60dBに対し同等程度。振動（昼間）は現況41～46dBに対し将来42～48dBと若干上昇し、夜間は同程度と予測している。
2	渡部会長	質問	将来交通量予測で南郷通（T-1）などの交通量が現況の約2倍以上に増える予測となっているが、それだけ増えても環境基準を満足できるということは、環境基準に対して交通量がほとんど影響しない（感度がない）ものなのか。	大気質は広域的影響のため8,000台から1万5,000台への増加に伴い濃度が変化する感度はほとんどない。一般的に、騒音・振動は交通量が2倍になると約3dB増加するとされている。現況値が十分基準を下回っているため将来も基準自体は満足できているが、3dB増加する感覚は個人差もあるため、評価方法を検討し今後の準備書等で整理したい。
3	渡部会長	質問	交通量が2倍以上に増えることで、道路のキャパシティ（容量）がいっぱいになり、周辺道路で著しい渋滞を引き起こすことはないのか。	周辺の幹線道路の交通容量に対して増加交通量を加味した場合であっても、道路の処理能力の範囲内であり、著しい渋滞を引き起こすレベルにはならないと予測している。
4	片山委員	質問	50年以上経過しているもみじ台団地らしい独特の景観や、地域住民が生活する上で大切にしてきた景観を保全するという観点での検討はなされたのか。	環境影響評価とは別に、もみじ台のまちの雰囲気や景色についてはまちづくり再編方針を策定する中で検討していく。
5	奥本委員	質問	市営住宅の住宅A案とB案で戸数が2倍ほど異なるが、今後何が決定要因となってA案かB案が選択されるのか（住宅ニーズが大きな決定要因になるのか）。	公園に建てる必要性や他場所での充足可能性、戸数・配置など様々な要素があるため、住宅ニーズも含めて総合的に検討していきたい。
6	北岡委員	意見	工事中の建設機械稼働や廃棄物発生に伴う温室効果ガスの予測・評価を行ってはどうか。	環境影響評価項目の選定にあたっては、札幌市環境影響評価条例技術指針を基本とするが、ご意見も参考に方法書段階で検討したい。
7	北岡委員	意見	5期にわたる長期事業で地区内に工事現場が出現し続けることに対し、景観や住宅住棟間の人と自然との触れ合い活動の場への影響評価は必要ないか。	環境影響評価項目の選定にあたっては、札幌市環境影響評価条例技術指針を基本とするが、ご意見も参考に方法書段階で検討したい。

審議会における主な委員質問及び事業者回答※後日事業者が一部回答を補足しております。

資料 1（令和 8 年度第 3 回環境影響評価審議会）

もみじ台地域の土地利用再編に伴う複合開発事業計画段階環境配慮書（第 1 回：令和 8 年 7 月 16 日）

No.	委員	区分	質問の要旨	事業者回答
8	森委員	意見	住宅A案・B案の図面で建物の形状・厚み・規模が成立しているのか疑問であり、日照評価への影響（日陰範囲等）について問題はないか。	A案（中廊下式）やB案（片廊下式）の配置・高さは日照や駐車場配置を考慮したものである。
9	森委員	意見	住宅規模が大きくなる（特にA案）ことで敷地内が駐車場アスファルトで埋められてしまう点など、自然環境への影響も加えて評価すべきではないか。	日照や駐車場も含めて配置できるよう検討している。方法書等において検討項目とするかどうか検討したい。
10	森委員	意見	建物の形状の違い（中廊下式・片廊下式等）がエネルギー消費量（温室効果ガス）に与える影響も検討すべきではないか。	建物の形状とエネルギー（温室効果ガス）との関係については、方法書等において評価項目とするかどうか検討したい。
11	山田委員	質問	宅地開発後の雨水排除が河川に入る際、配慮書で挙げられている野津幌川の水恋橋観測地点はもともと大腸菌等が高く他の影響を受けているが、本事業の影響評価の対象地点として適当か。	配慮書の地点は公開されている既存の調査地点を示したものです。本事業により直接的に影響を受ける地点については、方法書で調査地点を選定し現地調査を行ったうえで準備書以降で予測・評価を行う。
12	芥川委員	意見	大型店ができると大きな道路沿い（T-1～T-4）だけでなく静かな団地内・住宅地でも影響があると思われるため、住宅地での影響も配慮して予測してほしい。	ご指摘を踏まえ、団地内・住宅地での影響という観点も含めて方法書で予測方法等を検討し、準備書・評価書で取りまとめたい。